

(4) 心臓血管外科

概要、特色

(a) 概要

主に先天性心疾患の外科治療を行っている。心疾患の外科治療は、人工心肺（体外循環）を必要とする開心術と、人工心肺を使用しない非開心術がある。純粋に後天的な心疾患の外科治療は原則として行っていない。

(b) 特色

成育医療の考え方から、対象となる症例は胎児診断のついている新生児症例から、先天性心疾患に対する治療を小児期から受けていて、成人期に入っても継続的に治療を必要とするキャリアオーバー症例のうち、特に原疾患の遺残症、続発症に対する外科治療が必要となる症例までが含まれてくる。特に後者は従来の小児対象の病院ではカバーしきれなかった症例が対象となるため、成人の全身的管理を含むより幅広い集学的医療が求められ、外科的手技を含めてレベルの向上を目指すことが求められていると考える。

診療活動

(a) 入院診療

入院診療の中心は外科治療（手術）である。

2002年3月開院から手術室体制の確立を待ち、安全なシステムの確認を行いながら、手術治療を開始した。非開心術は4月から、開心術は5月から開始し、7月にはほぼ目標とする、ペースにのせることができた。この間関係各部門の努力により、患者への大きな負担をかけることなく、また大過なく診療が行えたと判断している。

手術症例概要（2002.3.～2003.3.）

(1) 開心術

手術総数 58 例

手術時年齢：1日～51才

内容：心室中隔欠損閉鎖 13 例、心房中隔欠損閉鎖 8 例、ファロー四徴症（肺動脈閉鎖を含む）根治 4 例、総肺静脈還流異常症根治 4 例、フォンタン型手術 4 例、右室流出路再建術 4 例、僧帽弁置換術 3 例、心内膜床欠損症（完全型、部分型）根治 3 例、大血管転位症根治 1 例、その他 11 例

(2) 非開心術

手術総数 43 例

手術時年齢：18日～32才

内容：体肺動脈短絡手術 14 例、ペースメーカー関連手術 13 例、肺動脈絞扼術 7 例、動脈管閉鎖術 5 例、大動脈縮窄症手術 2 例、肺動脈形成術 1 例、血管輪解除術 1 例、その他 10 例

(b) 外来診療

外来は毎週月曜、水曜、金曜の午後に診療を行っている。それぞれ常勤の医師3名で、医師別の枠を設けている。このうち原則として毎月第3金曜（休日等で診療ができない場合は翌週の金曜）は特殊外来としてペースメーカー外来にあてている。循環器科外来と時間枠、診察室を近接させ、診療面での柔軟性を高めるよう努めている。